

Green Sketch

グリーンスケッチ

No.18
2003 WINTER

新潟地区緑花推進シンポジウム

特集 「緑と花のまちづくり」

～都市における緑の増進と自然の再生～

- にいがた冬の散歩道
- 花と緑のイベント情報
- 植物に親しむ 雛祭りを楽しもう!
- 読者の広場
- 緑花センター掲示板



財団法人新潟県都市緑花センター

「緑と花のまちづくり」

都市における緑の増進と自然の再生

(財)新潟県都市緑花センターでは、「緑と花のまちづくり」をテーマに県内を6地区に分け、それぞれの地域に合わせた緑花推進の手法を考える、緑花推進シンポジウムを開催しています。今年度は10月25日に新潟地区で開催しました。その内容をご紹介します。

コーディネーター

国の生物多様性国家戦略の都市緑花に関する提言には、緑の基盤整備という言葉が載っています。私はこの緑の基盤整備は緑花、自然の再生が調和した形で推進することが望ましいと考えています。

新潟県の緑の百年物語でも、長期的なプランで継続的に緑花、自然の復元再生に取り組む意気込みが感じられます。そこで、市民の立場として、何ができるのか、緑の増進あるいは自然の復元に対して、如何に取り組むべきかが、大きな課題だと思えます。

緑と花が結ぶ人の縁

コーディネーター

それぞれの活動の中で、まちの緑の必要性という観点から、ご意見をお伺いします。

長谷川 新潟市は緑の塊がないところだという印象があります。中心市街地の衰退で、お店を壊した跡の空き地が駐車場に変わり、緑や花を減少させています。

都市部ではプランターに花や緑を植えて、緑の線や色とりどりの花の線をつくり、まちに明るさが灯ること、近所の人との付き合い合いなども変わって来るのではと感じています。



(有)ミカユニバーサルデザインオフィス代表
長谷川 美香氏 (新潟市)

高齢者、障害者、健常者すべてに配慮した公園づくりや住環境に係るコンサルタント業務、国、県、学校関係の各種委員会の委員及びアドバイザー業務などで活躍。

人間の縁(えにし)

コーディネーター

緑と花の線のネットワークが人間の縁(えにし)によって出来てくる。そういう緑や花を通して出来上がってくる社会は、今後、高齢化の時代の流れの中で必要な分野となるのではないのでしょうか。

田中 去年、「まちに緑を増やすには」というテーマの政策塾で、木を植えてもあとの手入れが大変だとか、場所がないなどの意見がでました。特に横越は農村地帯なので、田んぼに緑があるから必要ないという考え方もあって、とりまとめが大変でした。

チューリップを通して地域の方々との関わりによって、活動も目に見えてきました。今年も統一感のある地域の景観を考えると、政策塾の皆さんと一緒に取り組み、大勢の人たちと情報や面の交換を行い、阿賀の里づくり活動だけでなく、更に、まちに緑のネットワークが広がればよいと思います。



阿賀の里づくり・よこし
田中 久子氏 (横越町)

住民主導のチューリップフェスティバルなどイベントへの参画。中心市街地の景観スポットに花などを植栽・管理を行っている。また、楽しいまちづくりのために、町の花チューリップの植栽を住民に呼びかけるなどの活動を行っている。

飯田 新潟市は秋葉丘陵という素晴らしい財産があり、緑がとて多い地域だと思います。ここには、市民に楽しんでもらうため、遊歩道などが造られています。緑や花はつくるだけじゃなく、住人がそれをどう生かすかが大事だと思えます。

今後の問題として、生ゴミを肥料なり、土として花や緑に返す研究も必要かと思えます。以前、エネルギーを自給自足しているオランダのエコロシーのまちを見た時、総合的に緑や自然の再生を考えていると感じました。やはり、まちの自然と人間の暮らしがいかにかマッシュしていくのかがとても大事だと感じました。



家庭緑花
飯田 栄利子氏 (新潟市)

一年をとおした花づくりは、町内の人や保育園児などの通る人を楽しませ、また、小中学校に草花の種を提供している。絶滅の恐れのある種(ひつじ草)を増やす活動を「ちあきの会」で行っている。

小林 吉田町は昭和40年代にサン「シユを町の木に指定して、各家庭に生け垣的に植えたことがあります。しかし、都市化とも

に、庭が車庫などに変わったのが、いまの状態だと思えます。

その後、町の花としてパーペナテネラと「チニチノウ」を育て、いまは国道に咲いている「チニチノウ」が主体です。

私たちの活動は昭和63年からです。当初はすこし活気がありましたが、12〜13年経った今、後継者が続いてこないのが悩んでいます。

▼地域おこし

近藤 私たちは、もともと地域おこしが主眼でした。その活動は、吹きさらしの何も無い、高校と中学校の間の国道沿いに、花を植え始めました。

それから、金井町には、町の花がなかったため、町にふさわしい、町を象徴する花として、シャクナゲにしました。これは、金北山に自生しているシャクナゲが、町の木で、それがこれを、町の花として、町の木を落葉樹のフナにすることを、金井町へ働き掛けて、それが取り入れられたわけです。このように、緑と潤いのある町を提言し、行政と一体となった活動を続けております。

緑と花が育む地域の活動

コーディネーター

とかく活動は、身内だけのような形になって、マンネリ化してきます。これを打破するには、常に、定期的なイベントや商店街の活性化などに緑、あるいは花を活用するもの、ひとつの方向性だと思えますが、いかがでしょうか。

飯田 私たちは「ひつじ草の歌と花のあるまち」の活動をしています。「これは」「琵琶湖周航の歌」の原曲の「ひつじ草」が、新津市出身の吉田千秋という方の作曲だとわ



ひつじ草 スイレン科 多年草の水草

かったことがきっかけです。去年、滋賀県の環境を守る今津の会から数株いただいたて、現在、会員で育てています。この苗を新津市内の小中学校などの池や商店街に置いて、市民に親んでもらう。夏の新津の花として位置づける夢を抱いています。

田中 チューリップは畑が主体で、市民の中に取り込んだ活動はありませんでした。去年、町の中心地に、チューリップの球根を植木鉢に植えてオフシエにして飾ったところ、通りがかった人から、「きれいだね」、「ここは



横越町チューリップフェスティバル会場

面白いところだね」などと、すこし反響がありました。

町から場所を提供してもらい、みんなで作業した所が、「ひたまりの角」という景観スポットとなって、楽しんでもっています。

官民一体のパートナーシップ

コーディネーター

これからの緑花は、計画して造るだけでなく、そのあとの使い方やフォローアップの資金的な面として、様々な助成制度など、そういうものを上手に使うこと、あるいはそこに絡める知恵も大事になってくると思います。

▼ボランティアサポーター

小林 去年、私たちの活動が国土交通省の目にとまり、ボランティアサポーターの登録の話がありました。活動にかかる費用について金は出せないが、現物支給をするというものです。今年は、機械で耕耘してもらいました。



吉田町花と緑を楽しむ会会長
小林 文二郎氏 (吉田町)

児童遊園地・学校などの公共施設や、町内各地で花いっぱい緑化推進運動を行っている。平成13年度から活動の中心は、国土交通省のボランティアサポートプログラムに加入し、国・町と連携して、国道116号沿いのフラワーロード約1kmを花いっぱいにするため、植付けなどの管理を行っている。

近藤 活動をするには、当然経費の問題が絡んできます。地域を巻き込んで、さらに活動を維持するため、町内外の方々に「1000円をお願いして、花基金を設立しました。行政も応分の支援をしてくれませんが、地域のこ

とは我々で立ち上がり、自立する必要があるという信念で続けています。

また、地元の総合高校からは、実習で育てた花苗を大量に廉価で提供してもらい、生徒たちと連携をとって活動しています。

いま目指している「花のじゅうたんの里づくり」は地域振興局と連携し、休耕田を活用して行っています。これは、地権者の方々から我々の活動を理解していただき、春の島開きに、辺り一面黄色の菜の花のじゅうたんにしようと、二町歩近くを播種しました。

コーディネーター

いろいろな知恵がお話の中に凝縮しているように感じました。官民一体のそれこそパートナーシップというのを広く使っていて、そこにひとつの解決方法があるのかなという感じを受けました。

緑の増進と自然の再生

▼景観エコトーン

コーディネーター

緑の増進、自然の再生をどのように実現していけばよいのか、今後の課題を伺います。

私自身、県の21世紀里づくりプランで、農業と自然環境をいかに調和させるかということに関わっています。その中で、景観エコトーンということを検討してはどうかと思いました。例えば、今まで田んぼだった所に、急にアパートや住宅が建つと、住宅の横はすく水田となり、片方は居住空間、片方は農業空間で景観的に連続性がなくなるため、そのつなぎになるような緑の推移帯があると、非常に良いのではないかと感じました。

今後の都市緑地、特に民間の中で市民は何ができるのか、ご提言をいただきたいと思えます。

▼ポランテアの価値交換

長谷川 スウェーデンは、土地の70%を緑化していることを常に守っているそうです。そして、切ったら植えて、使ったら必ず増やす。使った分よりも多く増やし、減らさない努力をしているという話があります。景観エゴトーンの話が出ましたが、スウェーデンでは、住宅を造る時から緑化をひとつのキーワードに、環境共生住宅として屋根を緑化することか、住宅街の壁にツタを這わせるような形で、まちを造っています。それが、住んでいる人の次代へ繋ぐ思いや、人に対する思いやりを形にしているという動きがあるように私自身は感じています。

県民の思いやりの気持ちを緑花でアピールし、緑の百年物語で木を植えよう、私たちの方は草木を増やそうということになります。それは非常にいい戦略だと思います。また、こうしたポランテア活動を支える地盤づくりも同時に行う必要があります。その時、ポランテア団体同士が提供するものとしてお金ではなく、価値の交換をするエゴトーマネーというような形で、エゴトリアルで行う仕組みもできると感じています。

田中 私は4年程前に農村女性の仲間4人で直売所を開きました。そのまわりにある私の花畑を、なかなか手入れができない時に、町の人たちが草を取ってくれています。私一人では大変ですが、皆でやれば楽しく、ポランテア同士の価値の交換というのは大切だと思っています。

これからは、地域を飛び越えた方たちとの交流が、もっと広がればいいなと思います。

▼まちの緑文化の育成

飯田 まちの緑文化を育てていく必要があります。子供と緑、大人と緑、高齢者

と緑という視点で考えてはどうでしょうか。

子供と緑は、育てる楽しさ、花が咲く楽しさについて、植物への関心を持つてもらいたいことです。今年、市内の小学校11校に落花生の種を配りました。落花生の花が地上で咲いて、土の中へもぐって実がなることを子供たちに発見してもらおうと思ったからです。

大人と緑は、ひとりひとりが花の種を各家庭で育て、種が採れたり、苗が育つたものを交換するなど、大人はもっと積極的に緑とかわるごことです。

高齢者と緑では、お年寄りが荷物を持つたり、歩いたりした時は、200mが限度だということです。そこで、街路樹のところにちゅうと腰を掛けられる、荷物を置いて服できる、そういうものがあつたらうてもやさしいまちができると思います。

花も褒めるほうがよく育つようです。南側の庭より北側の玄關の花が、たくさん咲きます。きつと通る人が褒めてくれるからだと思います。

▼コーディネーター

子供と緑では、緑の教育的な効果、大人と緑では、大人自身が学習する効果、高齢者と緑では癒しの効果を、いまのお話の中で承りました。けれども、癒されるのは自分自身だけでなく、その相手である緑や花自体も、もしかしたら癒されているのではないかと思います。お話は新鮮に感じました。

▼人と自然(緑と花)の共生

小林 行政への甘えから一歩出て、みんなで自分の好きな花を買い、育て方を勉強して、知恵を出し合い、花を育てるのが良いと思います。

お互いに花を通じて、親睦と交流を深めることで、花と人間が一緒に育ち、人と自然(緑と花)と共生できると考えています。



金井町にある花時計

▼コーディネーター

花と人間が共生するということは、人間と緑、花、それから自然がお互いのことを考えて共生していくという活動に繋げていけば良いのではと私は受け取らせていただきました。

近藤 例えば、ひとくれば、いきなり花や木が根をおろせる状況ではなかったと思います。人間と自然とが長い時間をかけて、今の土壌ができたと思うんですね。この黒い土を無にしなないように、なんとか維持していかなければと、考え、活動を続けていきたいと思っています。

地域の郷土愛をキーワードとして

▼時間軸と空間軸

▼コーディネーター

緑や花、自然を考えていく上で、時間軸と空間軸が重要ではないかと思っています。イギリスの田園都市構想にしても、100年というタイムスパンの中で、現在も継続的に行われていきます。また、ドイツやオランダなどにおいても、まちの景観に関して、時間をか

けて継続的に市民が関与していく仕組みが、社会の中に根付いているのではないかと感じます。

地域での合意形成は、市民参加の活動や民有地の活用ということも含めて、どんな形で行えばよいのでしょうか。

長谷川 これからは住民参加ではなく、実際に知恵を出しながら活動をして、汗をかくという住民参画の時代だと思います。例えば行政が行う場合、その計画段階から住民が何らかの関わり方をすることです。つまり会合に顔を出さなくとも、そんなところから始めていくことが大事だと思います。

皆さんのお話を聞いて、個人の信頼関係の繋がりで、うまくネットをしながら強力で活かしていけるのは、緑とか花のなせる技ということを、強く感じさせられた気がします。身近なところから繋がりが合うところが、逆に民間、民有地の活用というところではうまくいく大事なところだと思います。

田中 農村のよさを異業種の人や町外の人から、「横越ってこない所があるんじゃないの?」と教えてもらって初めて、「ああ、自分たちはこんないい所に住んでいたんだな」と気づかされています。

私自身、景観について目を向けるきっかけとなったのは、自分の休耕田をなんとがデザインしたい気持ちで、農村景観デザイン養成講座を受けた時です。

チューリップを通じた自分の花つくりとか、草花を通じた景観つくりなら、自分でできるかなという気持ちで関わっています。

飯田 新津の場合、緑に親しむ講座がいくつもあります。そういう中で、各家庭で苗や種が採れた時に呼び掛けて、それをどこかで

育てられたら、実りの輪が広がり、人も育つのではと思っています。

小林 駅前的大型プランターに花を植えています。そこは若い人の溜まり場で、常に空き缶などが周囲にあつたんですけれども、花のプランターの中には何も入っていないんです。花というものは、皆さんの心を和らげ、やさしい気持ちにさせてくれると思います。



吉田町花と緑を楽しむ会活動状況

コーディネーター

先ほど時間軸というお話をしましたけれども、地域の同意を得ながら着実にひとつずつ積み上げていく継続性というのは、非常に重要な問題であると思います。

近藤 私たちの身の回りの花。たとえば、セイヤカアワモチンソウを使って染料にするなど、どのように生活に取り入れたらよいのかとか、地元の野の花が我々といういた関わりを持つているかなど、ひとつの共生ですね。

我々のささやかな住民運動が、ひいては根幹につながり、花を愛する人たちが集う島

というキャッチコピーの中で、佐渡を花の島にしたいという野望を抱いています。



金井町生き活き代表
近藤 利弘氏 (金井町)

花による地域起しの活動として、花を愛し、花の文化を楽しむ人々の作品を展示する場の「おらが町の文化展」の開催や、行き交う人々に四季に咲き誇る美しい花々を提供するため、「花時計」を中心としたフラワーロードづくりや商店街のプランターボックスの設置と維持管理などを行っている。

最後にひとこと

コーディネーター

当たり前のようにやっているボランティアは、自分自身の心が豊かになる、成長できる、マネージメント能力がついてくる、或いは活動を行うことにより、合意形成をする手法を勉強できるなど、大事な見返りを持っている行為ではないかと思えます。これは相利共生であり、お互いが利を得ることによっていける活動だと思えます。

縁と花をひとつの縁として、自然と人、それから縁、花が共生する社会においては、縁や花とかの自然の問題や課題を相談できる窓口として、都市縁花センターなどになっていただく、造園関係の会社とかNPOの団体などがお互いに連絡、助けあひながら相互作用を繰り返して、より大きなことに繋げていければよいと思えます。

いまひとつ、重要なこととして、郷土を好きになろう。それに自分が関わりながら、より良い郷土を目指して、次の世代に手渡していくという役割が、自分自身担わされているんだと思えます。

長谷川 花があると豊かに感じるのはどうしてなのかと考えると、それは住む人の心を表しているからだろうという思いがすこくあります。ひとりひとりの気持ちがちに生かされるシステムというの、ある意味ではユニバーサルデザインの一つといえるので、そういった思いを育てていきたいと思えました。

田中 花や緑にかかわって、仲間との交流が広がり、みんな楽しく心地よい空気をかきこく活動が続けていく一番の秘訣じゃないかなと思います。

飯田 ごごかの国では、金曜日には花を興さまのために買っていくかない男性は、いい亭主ではないというのをテレビで見、「ああ、いい困だなあ」と思いました。

小林 私たちはこの活動を楽しんでいます。好きなもの同士が好きなのをやりながら団体の活動を続けることが、地域のためと思っています。

近藤 今後も、いろんな花が香る、そういう地域づくりを継続していきたいと思えます。

コーディネーター

自然の論理と人間社会の論理というのは、どうしても合わない部分がたくさんあります。その調整も今後は私自身課題しながら、生物の多様性、遺伝子の多様性、生態系の多様性という、多くのものが多くの空間の中に住んでいられるようなものをつくりだしていくことを課題にしていきたいと思えます。



コーディネーター
キャリアテックカレッジ専門学校校長
五十嵐 実氏 (新潟市)

(財)新潟県都市縁花センター花と緑のアドバイザー
小中学校でのピオナー計画・施工管理運営、環境教育の指導及び自然観察会の実施や講演会などで活躍。

最後に今日のシンポジウムを通して、市民が花と緑、自然を縁として、互いに尊重し、尊重される社会の実現というのが重要なのではないかといいたいので、とりまとめさせていただきます。

会場での質疑応答

質問1 良好な地域の景観を保っている緑花(緑花活動)の維持について

意見・学校の総合学習など、小さい頃から体験できる場をつくること。
・ひとりで背負わないでそれぞれができる部分を役割分担する。
・地域を限定せず、インターネットで情報発信し、広く呼びかける。

質問2 学校教育と緑との関係について

意見・小学校に働きかけて、子供達に苗や種を育てる体験をしてもらう。
・学校との連携として、PTA活動で小中学校の先生方との繋がりができ、大きな支えとなっている。私たちの活動を学校教育に取り入れて、生徒から参加してもらおうなどの働きかけをしている。

質問3 新潟県独特のものに、花と緑をどう活かすか

意見・水田が減少しているため、田んぼを守ることが縁を守ることでないか。
・休耕田の活用として、春は菜の花、秋は萩を育てては如何か。

いつもと違う“雛祭り”を楽しもう!



「♪あかりをつけましょぼんぼりに お花をあげましょ桃の花〜♪」で親まれる3月3日の雛祭り。お雛様を飾り家族全員で女の子の健やかな成長と災厄除けを願ってお祝いするのが「桃の節句」です。今年の桃の節句には、いつもとちょっと違うお飾りを添え、ご家族でたのしんでみてはいかがでしょうか?



桃の節句アレンジ



③レモンリーフでオアシスを隠すように並べます。



②器いっぱいにおアシスを並べます。その中央のおアシスを円形にくり抜きます。



①用意する材料:アカメヤナギ・ユキヤナギ・チューリップ(ピンクダイヤモンド)・ソリダスター・スイートピー・ムギ・ガーベラ・レモンリーフ・キャンドル・器・オアシス・ラフィア



④そのオアシスにアカメヤナギの枝を挿して円錐形に組み、上をラフィアで結びます。ユキヤナギの枝をアカメヤナギに絡めながら挿していきます。

その他、アカメヤナギの代わりに桃、ソリダスターの代わりに菜の花、ガーベラの代わりにランタンキュラスなどを使っても違った感じが演出できると思います。



⑥ムギ・スイートピー・ソリダスターを挿していきます。



⑦オアシスが見えているところはグリーンで隠しましょう。



⑤まず、最初に花の大きいガーベラ、チューリップから挿して位置をきめます。

- I 花の小さいムギ・スイートピーを上方へ、花の大きいチューリップ・ガーベラを下方へ配置すると安定したデザインに!!
- II ムギ・スイートピー・チューリップ・ガーベラをアカメヤナギに添わせるものと輪郭から出すものでもイメージが違います!
- III チューリップの葉を全て取り除き水からあげ1~2日、水切れさせてみてください。チューリップがかわいそうな気がしますが、大丈夫です!フニャフニャになったチューリップは自由自在に枝に絡めたりしながらオアシスに挿すとシャキッが遊び気分でおもしろいですよ!
- IV スイートピーの茎は中空なのでワイヤーを挿し、ゆっくり曲げると造形的なデザインに!!

真中にキャンドルを入れれば、ぼんぼりに火が灯ります。雛飾りとして添えてみてください。



植物に親しむ

アレンジ(寄せ植え含む)は全てのデザインに基本技法がありますが、ご家庭で楽しむことに基本技法はいりません。ご自分で工夫して楽しんでみてください。大切なのは、やってみること、楽しむことだと思います。

桃の節句は正式には「^{じょうし}上巳の節句」といいます。

雛祭りの起源 平安時代の御人形(ひいな)遊びと、紙やワラで作った簡素な人形(ひとがた)に自分の厄や災いを移して川や海に流した「流し雛」の行事が結びついたものと言われています。

桜・橘 雛飾りのなかにある「桜」と「橘」は、京都御所にある「左近の桜」「右近の橘」を模したものとされています。左右は雛から見た位置なので、「桜」が向かって右、「橘」が向かって左に配置します。

ちよつと豆知識

寄せ植えで雛祭り



③ プリムラとブミラを配色します。花色をまとめるグルーピングと全体に配色する方法ではイメージが変わりますので、お好みの配色で植え込んでみてください。



② 中心となるジャノメエリカを植え込みます。



① 用意する材料: オレンジと黄色の和紙・透明フィルム・水引・ジャノメエリカ・アネモネ(切花)・プリムラ(ジュリアン)・ブミラ・鉢



④ ここではアネモネの切花をピックに挿して土の中へ! ジャノメエリカとプリムラをつなげるように高さを決めていきましょう。最後にサラシツマタを使って形を修正しています。



⑤ 鉢にセロハンと和紙を巻きます。和紙は2枚をずらして巻いてみてください。和紙を巻き終わったら水引で結びます。

今回はジャノメエリカを使いましたがアユキエリカなどを使うとやわらかい感じになります。オーナメントや透明フィルム(サランラップ)に“雛あられ”を入れリボンで飾ってみるのも面白いと思います。

玄関等に置いてお客様を迎えてみてください。

この季節の鉢花は他の季節にくらべ少ないですが、“自分の好きな花”や“子供の好きな花”で寄せ植えすることが家族で祝う、楽しい「桃の節句」になることでしょう。

ご家族で作った「桃の節句アレンジ」「寄せ植えで雛祭り」楽しいエピソードがありましたら、ぜひ、ご投稿ください。お待ちしております!!